ASHUREY CLASS主催

1st 「セレブレイト・マッツォート」

6.「良い地」は「乳と蜜の流れる地」

2023. 4. 13 (夜)

1.「良い地」とは

●神がアブラハムに与えると約束された
「わたしが示す地」が「カナンの地」
であり、「良い地」です。また、
「乳と蜜の流れる地」
「安住の地、ゆずりの地」
「父祖たちに与えると誓った地」
「どの地よりも麗しい地」
「主が絶えず目をとどめておられる地」
とも言われています。これらがすべて
キリストを啓示するたとえであるなら、具体的にどのように
啓示されているのかを学んで行きたいと思います。

2.「乳と蜜の流れる地」①

●「カナンの地」を「乳と蜜の流れる地」としたのは神です。旧約では17回登場しますが、これを初めて耳にしたのはモーセです。

【新改訳2017】出エジプト記 3章8節

わたしが下って来たのは、エジプトの手から彼らを救い出し、その地から、広く良い地、乳と蜜の流れる地に、カナン人、ヒッタイト人、アモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人のいる場所に、彼らを導き上るためである。

※「広く良い地」(אֶרֶץ טוֹבָה וּרְחָבָה)を、新共同訳は「広々としたすばらしい土地」と訳しています。なぜすばらしいのかと言えば、その地がキリストを証しする地だからです。それ以外の理由はないのです。

2.「乳と蜜の流れる地」②

乳と蜜の流れる地

エレツ・ザーヴァット・ハーラーヴ・ウーデヴァーシュ

ウーデヴァーシュ	ハーラーヴ	ザーヴァット	エレツ
וּדְבַשׁ	חָלָב	זָבַת	אֶרֶץ
蜜 と	乳	流れる	地

(1)「乳」(「ハーラーヴ」חָלָב)

(2)「蜜」(蜂蜜「デヴァシュ」דְּבַשׁ)

(3)「流れる、流れ出る、ほとばしり出る」(「ズーヴ」זוּב)

2.「乳と蜜の流れる地」③

●日本の旧約学者の池田裕氏は「乳と蜜の流れる地」を次のように説明しています。「荒野とカナンの違いは、水源や緑の量だけでなく、家畜の羊や山羊たちの育ち具合にも出てくる。・・荒野の羊や山羊は、沃地の羊や山羊に比べて、乳の出が悪い。・・カナンに来ると、一年を通して羊や山羊が食べる『緑』の量が違う。乳の出方もいい。家畜だけではない。イスラエル人の母親たちも、カナンに住んでから自分たちの乳の出が良くなったのに驚いたに違いない。赤子がいくら吸ってもまだあふれるように出る。『乳と蜜の流れる地』という言葉が生まれた背景には、こうしたイスラエル人自身が体験した大きな驚きと感動があったのだと思う。・・苛酷な荒野の生活をたっぷりと味わってきた人間だけが、それを少しも大げさとは思わないで使えた、カナンの美称なのだ。」(「わが名はベン・オニ」1986年、エルサレム文庫出版43～45頁)

2.「乳と蜜の流れる地」④

●なぜ、神は「乳と蜜の流れる地」と名づけたのか、それを聖書から思い巡らしてみたいと思います(根拠・理由・目的等)。

①【新改訳2017】レビ記 20章24節
それゆえ、わたしはあなたがたに言った。『あなたがたは彼らの土地を所有するようになる。わたしが乳と蜜の流れる地をあなたがたに与えて所有させる。わたしは、あなたがたを諸民族の中から選り分けた、あなたがたの神、【主】である。

②【新改訳2017】申命記 6章3節
イスラエルよ、聞いて守り行いなさい。そうすれば、あなたは幸せになり、あなたの父祖の神、【主】があなたに告げられたように、あなたは乳と蜜の流れる地で大いに増えるであろう。

2.「乳と蜜の流れる地」⑤

③【新改訳2017】申命記 11章9節
また、【主】があなたがたの父祖たちに誓って、彼らとその子孫に与えると言われたその土地、すなわち、乳と蜜の流れる地で、あなたの日々が長く続くようにするためである。

④【新改訳2017】エゼキエル書20章6節
その日、わたしは彼らをエジプトの地から導き出して、わたしが彼らのために探しておいた乳と蜜の流れる地、どの地よりも麗しい地に入れることを彼らに誓った。

※神がどの地よりも麗しい(「ツェヴィー」צְבִי=かもしか=花婿の象徴)地として、探しておいた(「トゥール」תּוּר=見極める/名詞「トール」תּוֹרは山鳩で花婿の象徴/⇒תּוֹרָה)とあります。いつ探しておられたのでしょうか。

3.「乳」

●「乳」(「ハーラーヴ」חָלָב)は、文字通りの意味の「地の豊かさ」を象徴すると同時に、神の霊であるみことば(キリスト)を意味します。

①【新改訳2017】ヨエル書3章18節
その日には、山に甘いぶどう酒が滴り、丘には乳が流れ、ユダの谷川のすべてに水が流れ、泉が【主】の宮から湧き出て、シティムの渓流を潤す。

②【新改訳2017】Ｉペテロ2章2節
生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、霊の乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。

4.「蜜」①

●「蜜」は「デヴァシュ」(דְּבַשׁ)です。「乳」が動物から得られるとすれば、「蜜」は植物から得られます。それらは「地」(キリスト)でミングリングされています。つまり「乳」と「蜜」は密接な関係を持っています。動物の「乳」は草が豊かでなければ、流れるようにはなりません。花と虫が存在しなければ、「蜜」を集めることができません。

●今回のマッツォート賛美の中に「主のみおしえを喜びとする人々は、なつめやしの木のように実を実らせる」というフレーズがあったことにお気づきでしょうか。「なつめやしの実」の「デーツ」は「蜜」を意味します。「乳と蜜」は「神のみことば」なるキリストを象徴しているのです。

4.「蜜」②

●神の教えである「トーラー」(תּוֹרָה)が「蜜よりも私の口に甘い」(詩篇19:10, 119:103)とたとえられています。特に詩篇19篇10節では、「トーラー」は「たましいを生き返らせ、無知な者に知恵を与え、心に喜びを与え、目に光を与える」とあります。やがてそんな日が確実にやって来るのです。

●「喜び・ごちそう」を意味する「マアダンニーム」(מַעֲדַנִּים)。このことばの中に、ある文字が含まれています。それが何かおわかりでしょうか。それは「エーデン」(עֵדֶן)ということばです。キリストがそのエデンを回復してくださるのです。どこで?「乳と蜜の流れる地」において。いつ? 「メシア王国の時」に。誰によって? 「イェシュア・メシアによって」。エデンが再び回復されるのは、すべてキリストによってです。そのことを、神は「乳と蜜の流れる地」として啓示されたのです。

5.「流れる」

●「乳と蜜の流れる地」の「流れ出る、ほとばしり出る」を意味する「ズーヴ」(זוּב)は「水が流れ出る」という意味で、イザヤ書48章21節、エレミヤ書49章4節、詩篇78篇20節で使われています。特に、105篇41節では「主が岩を開かれると、水がほとばしり・・・流れた」とあります。使徒パウロはこのみことばを「岩をキリスト」「水を御霊」と解釈しています(Ｉコリント10:4)。つまり「神のことば」と「御霊」は切り離すことのできない関係であり、神が与える「乳と蜜の流れる地」とは、キリストを指し示しています。それは神の民が味わうべき食べ物として、キリストが豊かに備えられた地です。それはまさに「エデンの園」を言い換えた表現と言えます。

6.「乳と蜜の流れる地」は「キリスト」①

●新約時代の二人の使徒であるペテロとパウロは、この「乳と蜜の流れる地」である「キリスト」を以下のように言い換えています。

(1) 【新改訳2017】 Ⅰペテロの手紙1章3～5節

3・・神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちを新しく生まれさせ、生ける望み(「ティクヴァー・ハッヤー」תִּקְוָה חַיָּה)を持たせてくださいました。

4 また、朽ちることも、汚れることも、消えて行くこともない資産(「ナハラー」נַחֲלָה)を受け継ぐようにしてくださいました。これらは、あなたがたのために天に蓄えられています。

5 あなたがたは、信仰により、神の御力によって守られており、終わりの時に現されるように用意されている救い(「イェシューアー」יְשׁוּעָה)をいただくのです。※「生ける望み」も「資産」も「救い」もキリストを意味しています。

6.「乳と蜜の流れる地」は「キリスト」②

(2) 【新改訳2017】エペソの手紙1章17～19節

17 どうか、私たちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。

※この祈りは、人の霊と御霊がミングリングするための祈りです。

18 また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、

①神の召しにより与えられる望み(תִּקְוָה/תִּקְוָה)がどのようなものか、

② 聖徒たちが受け継ぐもの(נַחֲלָה)がどれほど栄光に富んだものか、

※「受け継ぐもの」＝嗣業

19 また、③神の大能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力(כֹּחַ)が、どれほど偉大なものであるかを、知ることができますように。

※①②③は同義的パラレリズムです。

6.「乳と蜜の流れる地」は「キリスト」③

●使徒ペテロはアジアの各地に散らされているユダヤ人に対して、使徒パウロは異邦人であるエペソの人々に対して、つまり、いずれも「エックレーシア」を構成する者たちに対して語っています。

●ペテロは直接法で、パウロは祈りの形で「乳と蜜の流れる地」であるキリストを、「(生ける)望み」と「嗣業」と「救い・力」として語っています。ここにヘブル語の修辞法の醍醐味を感じさせられます。そのように、聖書にある語彙を言い換えることで、霊のつながりが見えてくるのです。それがパウロのいう「心の目がはっきり見えるようになって」ということばの意味なのです。

今回のまとめ

●神が命名した「乳と蜜の流れる地」という麗しいことばが、キリストを表すものであったことを、今回学びました。「キリストを知る」ということがどういうことかを、使徒たち(聖書)は語っているのです。

●私たちも彼らが語っていることを理解しながら、たましいではなく、霊の中でキリストを知る者となって、御国を受け継ぐ者としてキリストを証しする者となりたいと願います。

キリストにあって、「ロー・エフサール」!!